

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	社会福祉法人京都社会福祉協会 京都市久世児童館	施設 種別	児童館 (旧体系 :)
評価機関名	社団法人 京都社会福祉士会		

平成21年6月12日

総 評	<p>本児童館は京都社会福祉協会が運営する14事業所の1つで、児童館の近くには桂川が流れ、新興住宅と旧来の住居が混在し田園が残る地域にあります。開館は月～土曜日の8:30～18:00で、毎週火曜日と隔週の金曜日には幼児クラブが開催され、乳幼児と保護者の憩いの場となっています。1階のすこやかルームには、すべり台などの遊具があり、特に午前中はゆったりと自由に使用できます。また2階の図書室では、本の貸出しも行なっています。館内にはお茶を用意し、昼食を持参した親子が自由に飲食ができるようにする等、保護者の立場にたった柔軟な対応がされています。自宅だけで子育てするには狭い住環境に配慮した取り組みがなされ、幼児が思いっきり遊べる広いスペースが確保されていて保護者には好評です。</p> <p>館長をはじめ5人の職員間での『ハウ・レン・ソウ（報告・連絡・相談）』が徹底され、利用者及び地域での児童に関係する情報が共有されています。『子どもの幸福と安全』を第一に考え職員が専門性を高めつつ業務にあたっています。</p> <p>この児童館は乳児・幼児～小学生までの利用が大部分を占めています。他の児童館の取組みも参考にし、中・高校生の利用を増やす企画を模索し、より一層の充実した運営が出来るように検討してください。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ● 人権を重視した取組みをしています。毎夏に開催される”子供御輿巡行”では、実際に地域の歴史と現状について説明を受けて児童が地区を歩いて見聞し、人権意識を高める教育がなされています。児童館周辺地区の歴史や人権について、職員全員の熱心な取組みによるものと思われます。 ● 京都市が職員教育研修プログラムを作成し、職員が6年間で研修を修了するようにフォローする体制も整っています。また職員の得意分野を伸ばす研修にも取り組んでいます。 ● 館長は、長年この地域で教員をされ、地域の環境を熟知しています。職員は日頃から利用者及び保護者と連絡を取り、2ヶ月に1回開かれる『久世教育推進協議会』にも出席し、地域の教育関係者や地区代表、住民と児童に関する様々な情報交換を行うなど地域との連携を大切にしています。
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎朝の職員朝礼や1ヶ月に1度の職員会議で多くの議題が話し合われていることが確認できました。しかし、その各議事録が作成されていない為に、継続性及び改善策へのつながりが不明瞭でした。詳細な議事録の作成が望まれます。 ● 簡易なマニュアルはありましたが、詳細なものが作成されていませんでした。早急な業務マニュアルの充実が望まれます。職員の業務に対する意識や専門性の向上の為に、その見直しを定期的に行い、改訂時期の明示もしてください。 ● 日頃から利用者とのコミュニケーションを重視していることが伺えます。今後はアンケート等で利用者の意見を聞き、検討し、開示していくことで、より一層、児童館活動の発展に努めてください。

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シートの「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【共通評価基準】 児童館版

評価結果対比シート

受診施設名	社会福祉法人 京都社会福祉協会 京都市久世児童館
施設種別	児童福祉施設 児童館
評価機関名	社団法人 京都社会福祉士会
訪問調査日	2009年6月12日

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立されている。	① 理念が明文化されている。	A	A
		② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	A	A
	I-1-(2) 理念、基本方針が周知されている。	① 理念や基本方針が職員に周知されている。	A	A
		② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。	A	C
		② 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	A	C
	I-2-(2) 計画が適切に策定されている。	① 計画の策定が組織的に行われている。	A	B
		② 計画が職員や利用者等に周知されている。	A	A
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	A	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A	A
	I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	A	A

[自由記述欄]

I-1-(1)①②京都市児童館活動指針をもとに、久世児童館の理念が作成され掲示しています。
 I-1-(2)①京都市児童館活動指針を手本として、職員からの意見等を聞き取り、単年度ごとの事業計画が立て、実施しています。
 I-1-(2)②理念はニュースの上端部に小さいながらも表示しており、利用者への周知がなされています。
 I-2-(1)①②京都市が策定した児童館活動指針がこの児童館の中長期計画とされていますが、久世児童館独自の中長期計画は策定されていません。
 I-2-(2)①②年間行事計画の策定には保護者からの意見も取り入れ、職員全員が参加して検討していますが、その議事録は作成されていません。
 I-3-(1)①②館長は年間目標や広報誌を通じて役割と責任を表明しています。また法令等の改正についても随時対応しています。
 I-3-(2)①②今年度の利用実績、催しなどを総括して京都市へ提出する報告書を作成し、これを次年度の運営に活かしています。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A
		② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	A	A
		③ 外部監査が実施されている。	A	A
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A
		② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	A	A
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	A
		② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	A	A
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	A
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	A	A
	II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし、体制を整備している。	C	C
② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。		C	C	
II-3 安全管理	II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。	① 緊急時(事故、感染症の発生時など)の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	A	A
		② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	A	A
II-4 地域との交流と連携	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	B	B
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。	A	A
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A
		② 関係機関等との連携が適切に行われている。	A	A
	II-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。	① 地域の福祉ニーズを把握している。	A	A
② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。		B	A	

【自由記述欄】

II-1-(1)①②児童館を取り巻く地域の状況を把握し、その運営に活かしています。
 II-2-(1)①②人事管理の体制については法人で定められ、実施されています。
 II-2-(2)②共済会に加入しており、職員に対する福利厚生への配慮をしています。
 II-2-(3)①②③職員ごとの経験年度別の研修リストが作成されており、履修済分と未履修分がよく分かるようになっています。
 II-2-(4)①②実習生の受け入れはありません。またその準備も未整備です。
 II-3-(1)①②定期的に避難訓練を実施しています。児童館内での事例を検討して再発防止に努めています。
 II-4-(1)①地域の方々と、良好な関係を保ち、維持・運営に当たっています。
 II-4-(1)②0歳児を持つ母親を対象に隣接の保育所と重複しないような取り組みが行われています。ただし、児童館の地域への情報提供は十分には出来ていません。
 II-4-(2)①毎日小学校とは連絡を取り合っています。また地域の小中学校等と連携し、久世教育推進協議会を開催しています。
 II-4-(2)②地域の関係機関及び諸団体と連携し、いろいろな取り組みをしています。
 II-4-(3)①子育て関連の取組みについては、保護者、児童、地域のニーズの把握に努めています。
 II-4-(3)②児童が昼食を持ち込んで食べることができるようにする等、地域のニーズに応えた活動を行っています。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	A	A	
		② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	B	B	
	Ⅲ-1-(2) 利用者満足の向上に努めている。	① 利用者満足の向上に意図した仕組みを整備している。	B	B	
		② 利用者満足の向上に向けた取り組みを行っている。	B	B	
	Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	B	B	
		② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	B	
		③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	B	
	Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	A	A
			② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	A	A
③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。			A	A	
Ⅲ-2-(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。		① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	A	A	
		② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	A	A	
Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。		① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	B	A	
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	B	B	
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A	
Ⅲ-3 サービスの開始・継続		Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対して活動選択に必要な情報を提供している。	A	A
	② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。		A	A	
Ⅲ-4 サービス実施計画の策定	Ⅲ-4-(2) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。	① サービス実施計画を適切に策定している。	A	A	
		② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	A	A	

【自由記述欄】

Ⅲ-1-(1)①活動指針及び職員心得で共通の理解をもつ仕組みができています。
Ⅲ-1-(1)②利用者のプライバシー保護に関する規定・マニュアル等は十分な整備がなされているとは言えません。
Ⅲ-1-(2)①保護者・児童との日頃のコミュニケーションは良好ですし、行事の際には児童や保護者からのヒアリングも行ってはいますが、利用者満足の向上を意図した仕組みは整備されていません。
Ⅲ-1-(2)②保護者・児童の意見に耳を傾け、活動の工夫をしていますが、その記録は十分ではありません。また、利用者満足についての分析・検討の結果に基づいた改善は十分には行われていません。
Ⅲ-1-(3)①臨機応変に事務室を相談室として利用するといった工夫はなされていますが、職員との相談方法が明示されていません。
Ⅲ-1-(3)②③利用者からの意見等に対して職員全員が迅速に対応することは徹底されていますが、記録が見当たりません。苦情受付の仕組みが利用者に明示されていません。
Ⅲ-2-(3)①利用者に関するサービス実施状況は児童館日誌や学童クラブ日誌で確認できます。また、その記録は適切に記されており、職員間のばらつきがないように書かれています。職員間の連携の良さが見受けられます。
Ⅲ-2-(3)②記録は利用者ごとにまとめられ、鍵のかかるロッカーで管理されています。個人情報開示規程は設けられていません。
Ⅲ-3-(1)利用希望者には丁寧かつ適切に説明を行っています。
Ⅲ-4-(2)サービス実施計画については、職員間で協議され定期的に検討・見直しがされています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【付加基準】 評価結果対比シート

児童館

受診施設名	社会福祉法人 京都社会福祉協会 京都市久世児童館
施設種別	児童福祉施設 児童館
評価機関名	社団法人 京都社会福祉士会
訪問調査日	2009年6月12日

【付加基準】児童館版 評価結果対比シート

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-1 遊びの環境整備	① 遊ぶ際に守るべき事項(きまり)が、利用者に理解できるように決められている	A	A
		② 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある	B	B
		③ 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している	A	A
		④ くつろいだり、休憩したりするふれあいスペースを作っている	A	A
		⑤ 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている	B	B

【自由記述欄】

A-1①職員全員で協議をし、きまりを決定しており、児童館内の随所にきまりがわかりやすく掲示されています。
A-1②現在、中高生の利用はほとんどありませんが、平成21年9月より閉館時間を30分延長し、閉館が18時30分となる予定です。
A-1③地域の乳児親子が自由に遊ぶ場が設けられています。
A-1④普段は大きなホールを2つのスペースにわけて、乳児と児童が別々に遊ぶようになっていますが、必要に応じて分けている仕切りを動かして大きなホールとして使用しています。
A-1⑤図書室には様々な年齢の児童が楽しめる本があり、貸し出しも行っていますが、中高生の利用はほとんどありません。

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-2 乳幼児と保護者への対応	① 乳幼児と保護者が日常的に利用している	A	A
		② 乳幼児活動が年間を通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている	B	B
		③ 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している	B	B

【自由記述欄】

A-2①利用者は幅広い地域から来ており、日常的に利用されています。
A-2②毎週火曜日と隔週金曜日に乳幼児と保護者が一緒に参加できる幼児クラブが開催され、多数の参加があります。保護者と乳幼児のそれぞれに対する取組みは十分ではありません。
A-2③学童クラブの保護者会はありますが、企画・運営に参画するまでには至っていません。

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-3 小学生への対応(核となる児童館活動)	① 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	A	B
		② 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	A	B
		③ 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深める取り組みが行われている	B	A
		④ 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・主体性を育てることを意識して企画されている	A	A

【自由記述欄】

A-3①個々の児童への対応について、その十分な記録を確認することができませんでした。
A-3②職員研修受講後に伝達研修をして、すぐに遊びの実践に取り入れる努力をしています。ただし、取組みや事例検討の記録が十分ではありません。
A-3③国籍の異なる保護者にも児童館の利用方法などを工夫して説明しています。
A-3④学童クラブでは毎年4月から6月までを1年生が馴染める期間とし、7月以降に月に1回『久世っ子』という催しが行っています。ここでは、児童の意見も取り入れ、柔軟な行事設定をしています。またその行事の案内等を学校に配り、児童館の利用促進を図っています。

	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-4 中学生への対応	① 日常的に中高生の利用がある	C	C
		② 中高生が主体性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	C	C
	A-5 利用者からの相談への対応	① 利用者からの相談への対応が自然な形で行われている	A	B
		② 虐待を受けた児童や不登校児への支援体制が整っている	B	B
	A-6 障害児への対応	① 障害のある児童の利用に対する支援策が整っている	A	A

【自由記述欄】

A-4①② 児童館の近くに中学・高校がないため、中高生の利用はほとんどありません。しかし年に数回、行事の時にはOB、OGの児童が手伝いにやってきて交流を深めています。中高生の利用が今後の課題と思われまます。
A-5①日常での相談活動は自然な形で行われているようですが、それを確認できる記録が不十分です。
A-5②虐待児に対して、児童館の職員が関係機関とも連携して迅速に対処できるような支援体制を検討中です。
A-6① 障がいのある児童に対し、学校や保護者の意見も聞きながら、連携をとってその児童にあった支援をしています。

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-7 地域の子育て環境づくり	① 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	B	B
		② 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	B	A
	A-8 広報活動	① 広報活動が適切に行われている	B	B
		② 児童館の活動内容をわかりやすく知らせ、利用促進につながるように創意ある広報活動が行われている	A	A

【自由記述欄】

A-7① 久世社会福祉協議会で開催される『久世子育て支援部会』会議に職員2名を派遣し、地域の団体や住民と情報を共有し健全な児童育成に役立っていますが、児童館内に運営委員会の設置が望まれます。
A-7② 安全パトロールを行ったり、必要に応じて児童を家に送り届けるなど、児童の安全を最優先に考え柔軟に対応しています。学期毎に地域の見回りに参加をし安全啓発に努めています。
A-8① 児童館の活動案内を載せた『はあと』、幼児クラブの案内の『幼児クラブ』、学童クラブの案内の『くげがくどうだより』の3種類のおたよりを毎月発行しています。地方新聞及び自治体の広報誌の活用はありません。
A-8② 3種類のおたよりはプライバシーに配慮しつつ、活動の写真を掲載し、見やすい記事を作っています。